

表3-1-2(2) 参考文献リスト

No	タイトル インデックス	文献タイトル	掲載誌名	発表形態の区分		発行年	頁	発表者 インデックス	発表者	カテゴリ	キーワード	要旨(能代断層調査関連)
				学会機関誌・団体研究発表・大 学研究・公約機関・図書								
21	あきた-ほ	秋田県北部沿岸地域における上部更新統中の広域テフラ層序-降下体制した三瓶木次軽石の発見ならびに御岳第1軽石問題	第四紀 vol.32	第四紀総合研究会		2000	11-17	のむら	野村亮策 ほか	テフラ	広域テフラ, 三瓶木次, 御岳第1軽石, 逆川テフラ	逆川では, Aso-4の下位約5mの泥炭中に逆川テフラとその直下にSKがあり, 更にその下側約13mにToyaがある。逆川では, Toya降下以前から風成砂層が堆積し, Aso-4降下直後に停止する。
22	あきた-え	秋田県北部沿岸地域における直下型地震と活断層	秋田大学地下資源研究叢報	秋田大学		1993	26-52	ふくどめ	福留高明	古地震	日本海東縁変動帯, 古地震, 直下型地震	文献2Awata・Kakimiの紹介。
23	あきた-じ	秋田の地震とテクトニクス	秋田大学公開講座「秋田の地震と活断層」第3回	秋田大学		1996	48	ふくどめ	福留高明	古地震 テクトニクス	プレートテクトニクス, 再来周期, 古地震	古地震資料による再来周期の解析, マグニチュードの予測。
24	あそ4	阿蘇4火山灰-分布の広域性と後期更新世示標層としての意義-	火山, 第2集, vol.30, No.2	日本火山学会誌		1985	49-70	まちだ	町田洋 ほか	テフラ	載的性質, 降灰範囲, 火山ガラス, 第四紀編年	Aso-4火山灰は火山ガラスと本質鉱物に際立った特徴があり, 広大な分布域を持つこと, 約7万年前と考えられることが判った。
25	きたにほん	北日本を広く覆う洞爺火山灰	第四紀研究, vol.26, No.2	日本第四紀学会誌		1987	129-145	まちだ	町田洋 ほか	テフラ	洞爺火山灰, 広域テフラ, 噴出年代, 第四紀編年	Toyaは火山ガラスの低屈折率と高い屈折率の斜方輝石という特徴がある。また北日本地域を広く覆う。噴出年代は9-10万年前とされ, 下末吉から小原台期の海成段丘の同定に有効である。
26	かつだん	活断層	岩波新書	岩波出版		1995	164-165 (全242)	まつだ	松田時彦	活断層	活断層, 北由利断層帯	北由利断層帯はA級であり, 地形的にははっきりしていないが西側で1,000m以上も沈降している。
27	とうほく	東北日本北部における後期更新世海成面の対比と編年	地理学論評, vol.61(Ser.A), No.5	日本地理学会誌		1988	404-422	みやうち	宮内崇裕	地形	旧汀線, 後期更新世テフラ編年	指標テフラと褐色火山灰土堆積速度から高館面(畑谷I面)を最終間氷期最盛期(12~13万年前)とした, Toyaは9万年前と推定される。後期更新世には少なくとも4つの高海水面期が推定される。
28	しゅうきょく	褶曲に伴う層面すべり断層	活断層研究, vol.7	活断層研究会		1989	5-12	よしおか	吉岡敏和	活断層	逆向き断層, 層面すべり, 換曲, 変位量の計算	逆断層の上盤に生じる副次的断層の発生機構として, 逆断層・成断層のいずれの場合もある。また, 層面すべりで断層を生じない場合もある。
29	かつだん	活断層地形判読-空中写真判読による活断層の認定-	同左	古今書院		1999	74-75 (全184)	わたなべ	渡辺満久 ほか	活断層調査	空中写真判読, 盤断層	盤断層を例とした写真判読結果の紹介。断層の変位は逆向きで, 総延長は1.5km。
30	すずか	鈴鹿山地東麓・大安町付近における一志断層系の性状	活断層研究, vol.7	活断層研究会		1989	71-78	とうごう	東郷正美 ほか	活断層調査	鈴鹿東縁断層帯, 活断層調査, 一志断層, 反射法, トレンチ調査	低角断層運動による上盤の変形と関係して生じたbedding-moment faultの一種と理解されてきたが, いずれでもなく, bedding fault と考えられる。
31	だいやんき	第四紀テクトニクスの特徴と問題点	第四紀研究, vol.26, No.3			1988	251-254	まつだ	松田時彦 ほか	テクトニクス	第四紀, テクトニクス	第四紀の造構運動について, 大小の活断層の構造からアプローチ。
32	かつだん	活断層の分布からみた東北地方の地形起伏-いくつかの疑問	月間地球, 号外, No.27	海洋出版		1999	113-117	いまいずみ	今泉俊文	地形	活断層	東北地方には南北方向の断層が盆地や山地を形成しているが, 中には活断層が無いのにも関わらず, 隆起地形が認められる場所もある。地下構造, 特に, 南北方向の連続を考察すべきである。
33	とうほく	東北日本の主要断層モデル	月間地球, vol.21, No.9	海洋出版		1999	569-575	さとう	佐藤比呂志 ほか	活断層	活断層, 断層モデル断面	層である。インバージョンテクトニクスをもとに, 東北日本の伸張変形から短縮変形を統一的に説明できる新しい主要断層系のモデルを提案する。
34	あきた	秋田県男鹿半島の海成下・中部更新統	第四紀露頭集	日本第四紀学会		1996	152-153	しらいし	白石建雄, 的場保望	テフラ	男鹿半島, 臨本層, プリュクス, 松山クローン境界	男鹿半島南岸, 臨本西方の生鼻(おいはな)先から西の露頭に北浦層と, 上位に整合に重なる臨本層が認められる。松山-プリュクス境界を含むことから第四紀層位学的に重要である。
35	あきた	秋田県男鹿半島の海成上部更新統(潟西層)と広域テフラ	第四紀露頭集	日本第四紀学会		1996	154	しらいし	白石建雄, 的場保望	テフラ	男鹿半島, 潟西層, 洞爺テフラ, 三瓶木次テフラ, 御岳第1テフラ	男鹿半島北東部には潟西層と呼ばれる海岸段丘が分布する。この潟西層内には洞爺テフラ等多くの広域テフラが多く認められる。
36	だいやんき	広域テフラのリスト	第四紀露頭集	日本第四紀学会		1996	xii-xiii	しらいし	白石建雄 ほか	テフラ	広域テフラ, SK, ST, Toya, Aso-4	表3 日本列島とその周辺で第四紀後期(過去13万年間)におこった巨大噴火による広域テフラのリスト。表4 日本列島で第四紀中・前期におこった巨大噴火による広域テフラのリスト
37	あきた-や	秋田-山形活構造図(1/20万)		地質調査所		1981		ちしつ	地質調査所	地質構造	活構造	秋田, 山形地域における活構造図を記載した。
38	のしろ-ち	能代沖積平野の地史	能代山本地方史研究第4号			1987	1-13	ふじもと	藤本幸雄	地史	段丘地形, 軽石質火砕流堆積物, 砂丘	能代市付近におけるボーリング柱状図の対比により, 能代市周辺の地形・地質形成史を考察。特に, 米代川流域の軽石質火砕流堆積物層の詳しい記載を行った。毛間内等, 数枚の火山灰層を報告。
39	あきた-ゆ	秋田油田第三系層序に関する最近の変革	石油技術第57巻第4号	石油技術協会		1992	315-333	まとば	的場保望	層序	有孔虫, 男鹿半島, 第三期層序	臨本層について, それらの層序関係について述べた。この結果は, 従来言われていた秋田油田地域の層序関係とはかなり異なることが明らかに。
40	とうほく-ほ	東北本州日本海地域の後期新生代有孔虫群集の変遷	地質学論集, 37号	日本地質学会		1992	125-138	まとば	的場保望	層序	有孔虫, 男鹿半島, 第三期層序	深層群集が分布, 女川期には浮遊性有孔虫群集は寒流系のものに変わり, 南方系深層水群集は混合して存続し, 船川期の始めになって消滅した。